河川基金助成事業

「ラ・フェリーチェ保育園」

報告書

助成番号 ： 2018-7111-002

茨城県つくば市　ラ・フェリーチェ保育園

園長　　髙橋 晃雄

平成 30 年度

様式　8

〔学校部門〕　　［概要版報告書］

助成番号	助成事業名		学校名
2018-7111-002	四季の小貝川保育園 3		ラ・フェリーチェ保育園
校長名	髙橋晃雄	担当教諭名	髙橋晃雄
過去の助成実績	なし　○あり〔助成番号：2017-7111-003　助成事業名：四季の小貝川保育園 2　〕		
キーワード	「河川環境教育」「川遊び」「川下り」「魚類」「陸生昆虫」		
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（　年　　名） 保育園児(年長　6 名)		
対象河川名	小貝川	活動場所の指定状況	なし　○子どもの水辺　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：身近な河川空間での四季を通した自然体験活動
ねらい　：自然体験活動を通して「生きる力」を育む
評価の観点：プログラム後に園児が描いた絵日記から、育つことが期待される領域を推測する
活動時期の予定：6-10 月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（　　）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（体験活動）	合計
上記の活動時間数	時間	時間	時間	5 時間	12 時間	17 時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	・ 公益財団法人ハーモニィセンター小貝川ポニー牧場の協力を得て、河川騎馬パトロールを実施した。 ・ ハーモニィセンター小貝川ポニー牧場と流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科の寺中祥吾助教授と学部の学生の協力を得て、Ｅボート川下りを実施した。					

活動成果	発表形態			成果作品
	学級単位	学年単位	○学校全体	絵日記と写真を保育室に展示
	対外発表（　　）			

安全対策に関する課題

問題点は、感じられなかった。

活動の成果と今後の課題・展開

本園では、日常の設定保育として、保育園から約 200 メートルにある面積 7.3 ヘクタールの研究学園駅前公園の雑木林や水辺、原っぱで野外体験活動を行っている。
こうした日常の体験活動と水辺の体験活動によって育つことが期待される 5 領域の違い(子どもの変容の大きさ)について検証し、来年度以降の事業目的に生かしていきたい。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動系	川遊び	6-8 月
			体験活動系	川下り	9 月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

授業内容紹介資料

助成番号	2018-7111-002	事業名	四季の小貝川保育園 3

子どもの発達と水辺の体験活動の関係

本園では、2017 年から「四季の小貝川保育園」や「小貝川リバーキャンプ」などの、水辺の体験活動の対象園児を 5 歳児(年長)としている。

保育指針では、3 歳以上の保育に関するねらい及び内容に「環境」が明記され、野外体験活動の実施が推奨されている。しかし、本事業では、その特性と子どもの発達から 5 歳児を対象とすることが望ましいと考える。

その根拠となるのが以下の子どもの年齢ごとの発達である。

4 歳児

- 身近な自然環境に興味を示し、積極的にかかわろうとする。
- 想像力が豊かになり、自分の行動やその結果を予測して、不安などの恐れの気持ちを持つようになる。

5 歳児

- 大人が行う動きのほとんどができるようになり、手先の器用さが増す。
- 物事を対比する能力が育ち、時間や空間などを認識できる。
- 少し先を見通しながら目的を持った活動を仲間と行える。
- 経験を通して、判断したり、異なる思いや考えを認められるようになる。

事業を開始した 2016 年は、4 歳児も参加した。河川敷では興奮していた子どもたちが水辺に達すると精神的に不安定になり、川に入るとパニック状態になる子どももいた。これは、川に興味はあるが、経験や知識不足から、悪い(恐ろしい)結果を予測してしまった結果と考えられる。またタモ網などの採集道具やＥボートのパドル(子ども用)も正しく使うことができなかった。

しかし、5 歳児になるとこれらの用具を正しく使うことができるようになった。

少なくとも本事業のプログラムである河川騎馬パトロールやＥボート川下りを体験するには、5 歳児になって取得する「運動機能の高まり・目的のある集団行動・思考力の芽生え」が重要であると考える。

勿論、年齢ごとの発達に見合った水辺のプログラを否定するものではなく、推進すべきものであることを付け加えておく。

水辺の体験活動によって育つことが期待される領域

小貝川(利根川水系)をフィールドした野外体験活動「四季の小貝川保育園」は、河川基金学校部門の助成を受けて 2016 年から実施し、本年度が 3 年目となる。

本事業の目的は、「身近で多様な自然環境を有する河川空間での五感を刺激する体験活動を通して、子ども達の感動する心を育み、仲間たちと川で遊ぶ楽しさを伝えるとともに、そこに住む生き物や環境との関わりを通して川を大切にする心を育む」ことである。

こうした中で、本年度、保育指針が改定され、小学校入学までに育つことが期待されている「生

きる力」の基礎となるものとして「5 領域」が導入された。

5 領域とは、①心身の健康に関する「健康」、②人との関わりに関する「人間関係」、環境とのかかわりに関する③「環境」、言葉の取得に関する④「言葉」、感性と表現に関する⑤「表現」である。

その中で、野外体験活動によって育つことが期待される内容は、以下のものである。

①健康

- いろいろな遊びの中で十分に身体を動かす。
- 進んで戸外で親しみ、楽しんで取り組む。
- 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。

② 人間関係

- いろいろな遊びを楽しみながら、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりなどする。
- よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。

③ 環境

- 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。
- 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。
- 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

また、本事業では、子どもの変容を知る方法として、プログラムごとに子どもが絵日記を書き、発表をしていることから、④「言葉」と⑤「表現」も育つことが期待される。

本来文字は、小学校教育で取得されるものだが、本園では、4 歳児(年中)から文字を教えているため、5 歳児(年長)は、ひらがなとかたかな、小学 1 年生レベルの漢字能力があると思われる。

絵日記を描き発表することで特に育つことが期待される内容は、以下のものである。

④言葉

- いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

⑤表現

- 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

以上のことから、事業目的と 5 領域との関係を整理することが望ましいと考えた。

また本園では、日常の設定保育として、保育園から約 200 メートルにある面積 7.3 ヘクタールの研究学園駅前公園の雑木林や水辺、原っぱで野外体験活動を行っている。

こうした日常の体験活動と水辺の体験活動によって育つことが期待される 5 領域の違い(子どもの変容の大きさ)について検証し、来年度以降の事業目的に生かしていきたい。

プログラムの実施状況と絵日記の分析

河川騎馬パトカーロール　実施日 ： 2018 年 6 月 2 日

公益財団法人ハーモニィセンター小貝川ポニー牧場の協力を得て実施した。
小貝川の河川敷約 4 ㎞を交代で馬に乗って、高い視線から河川の風景を楽しんだ。また増水時河川敷に漂着したゴミを発見した場合は、後ろから歩いている友達に伝えこれを回収した。

川はどんなところだろう　実施日 ： 2018 年 6 月 28 日

保育園の創作の時間に子ども一人一人がペットボトルで船を作り、小貝川に浮かべた。
川に入ることで、川の水の冷たさを知り、また船が上流から下流に流れていくことで川の流れを体感した。
川の中を移動中にオタマジャクシや魚を見つけ、興味を持ったところで玉網を渡した。初めは、全く採取できなかったが、ガサガサのやり方を教えるとコツをつかんだ子どもが採取に成功した。またタニシを見つけて採取した子どももいた。
採取した生物は、保育園に持ち帰り、混合保育を実施している 3-4 歳児と一緒に観察した。

川の生き物探し・川遊び　実施日 ： 2018 年 8 月 17 日

最初に小貝川の河川敷の草地とクヌギや川ヤナギの河川林で生物探しを行った。アブラゼミやショウリョウバッタ、イナゴなどが採取できた。
小貝川の砂浜から川に入り、ガサガサを行った。子どもたちは、コツをつかみスジエビやウシガエルのオタマジャクシ、アメリカザリガニ、アメリカナマズなど多くの生き物を採取できた。採取した生物は、浅い水槽に移して観察した。
その後、少し上流に移動して川流れや鬼ごっこをして遊んだ。

E ボート川下り　実施日 ： 2018 年 9 月 19 日

公益財団法人ハーモニィセンター小貝川ポニー牧場のスタッフと流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科の寺中祥吾助教授と学部の学生の協力を得て、Ｅボート川下りを実施した。
小貝川ポニー牧場から約 4 ㎞上流の二三成橋付近で子どもたちと学生が協力してＥボートの組立てを行った。
小貝川ポニー牧場のスタッフからパドルの取り扱いなどの指導を受けてから川下りを実施した。
川下りの途中で、中州に上陸し、浅瀬でカラス貝採りを行った。

秋の虫探し　実施日 ： 2018 年 10 月 3 日

小貝川河川敷の草地と小貝川ポニー周辺で生物探しを行った。
草地では、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、クルマバッタなどが採取できた。また空一面を飛ぶアキアカネを観察することができた。
小貝川ポニー牧場の周辺では、牧場から風邪で飛ばされたオガクズからできた堆肥の中からカブトムシの幼虫を発見して観察することができた。

絵日記

子どもの変容を知る方法として、プログラムごとに子どもに絵日記を書かせてこれを分析した。プログラムは、午前中に実施し、午後に絵日記を書いた。

最初に子どもに順番に今日のプログラムでどのように感じたかを話させた。次に絵を描かせ、最後に文章を書かせた。

絵日記の分析

河川騎馬パトロール

文章では、乗馬とゴミに関することを６人(全員)、途中で出会った白鳥に関することを２名、川に関することを１名が記載した。

・ごみがいっぱいありました。川がきれいだったらいいな。

・ゴミがきたなかった。ゴミはすてちゃだめ。

・白ちょうがいてびっくりしました。

絵では、馬、友達と指導者を６人(全員)、白鳥を４人が描いたが、ゴミそのものは、誰も描かなかった。

川は、どんなところだろう

文章では、ペットボトルの船に関することを6人(全員)、川の流れに関することを4人、水の冷たさに関することを4人、生物に関することを1人が記載した。

・右にいったり左にいったりくねくねとながれていきました。
・ペットボトルをうかべました。いろいろなほうこうにいきました。
・川はすごーくつめたかったです。
・あんまり魚や虫がとれませんでした。

絵では、友達・指導者を6人、ペットボトルの船と生き物をそれぞれ2人が描いた。友達・指導者を描いた6人中4人がライフジャケットも描いている。

川の生き物探し・川遊び

文章では、生物を採ったことを5人、生物を触ったり、観察したことを4人、川遊びの感想を4人が記載した。

・ザリガニをつかまえてさわるのがたのしかった。
・さわるのはにがてだけどすこしさわってみました。
・水そうに入れるとはっきりきれいに見えました。
・おたまじゃくしをつかまえました。つるつるしていてあんまりつかめませんでした。

絵では、友達・指導者を6人、生物を4人が描いた。友達・指導者を描いた6人中4人がライフジャケットも描いている。

Ｅボート川下り

文章では、6人がＥボートに乗って感じたことを記載している。そのうち2人は、怖かったことと楽しかったことを記載している。カラス貝について2人が記載している。

・ちからいっぱいこぐとはやくなりました。
・草にぶつかって、ちょっと、こわかったです。
・うごいていくと、風がとても気もちよかったです。
・川に貝があるとおもわなかったので、おどろきました。
・うれしかったのは、手とおなじくらいの貝を見つけたことです・

絵では、友達・指導者、Ｅボートを6人(全員)が描き、同行したカヤックを4人が描いている。カラス貝を1人が描いている。

秋の生物探し

文章では、虫を取ったことや観察したこと、虫に対する気持ちを6人(全員)が記載している。そのうち2人が日常的に行っている公園との違いを記載している。

・虫がたくさんいて、大きくてわくわくしました。
・空には、かぞえきれないぐらいたくさんのとんぼがとんでいました。
・かぶとむしのよう虫を見つけて、さわるとぐにゆっとしていました。
・公えんの虫よりうごくのが、はやくて、つかまえるのがたいへんでした。

絵では、3人が虫だけを描き、2人が子ども(１～2名)と虫、1人が虫カゴを持った友達を描いている。虫を描いた5人は、全員複数の種類の虫を描いている。

様式　14

［学校部門］　　［活動写真］

助成番号	助成事業名	学校名
2018-7111-002	四季の小貝川保育園 3	ラ・フェリーチェ保育園

	フィールド: 小貝川 日　付　　：2018 年 6 月 2 日 コメント　：河川騎馬パトロール
	フィールド: 小貝川 日　付　　：2018 年 6 月 28 日 コメント　：川はどんなところだろう
	フィールド: 小貝川 日　付　　：2018 年 8 月 17 日 コメント　：川の生き物探し・川遊び

	フィールド：小貝川 日　付　　：2018 年 9 月 19 日 コメント　：Ｅボート川下り
	フィールド：小貝川 日　付　　：2018 年 10 月 3 日 コメント　：秋の虫探し

様式　17

〔学校部門〕　　［実施箇所位置図］

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2018-7111-002	四季の小貝川保育園 3	ラ・フェリーチェ保育園 園長　髙橋　晃雄

助成事業の主な実施箇所

主な実施箇所	利根川水系小貝川　(茨城県取手市椚木　小貝川緑地)